肉用種めん羊の体型についての一調査*

鶴見 利司・近藤 知彦**

(北海道立滝川畜産試験場)***

昭和 40 年 12 月 21 日受理

本格的な羊肉生産を目的として、北海道では、昭和 32 年以来、各種肉用種めん羊の導入を行ない、適応性調査並びにコリデール種との雑種利用試験を実施して、肉めん羊造成の技術体系の確立を急いでいるが、今回、すでに輸入されている 4 品種について、その体型を調査したので、その結果を報告する。

供試材料および試験方法

供試めん羊

1) サウスダウン種—昭和 32 年および 33 年に濠州より輸入された雌 34 頭で、調査時月令は 24~40 カ月であった。(文献 (1) の材料を用いた)

2) ロムニマーシュ種—昭和 37 年および 38 年に濠州並びにニュージーランドより輸入されたもののなかから、正状なもの 21 頭を選択した。

調査時月令は 35~50 カ月であった。

3) チェビオット種—昭和 39 年に濠州より寄贈を受けたもの 8 頭で、調査時月令は 12 カ月であった。

4) ドーセットホーン種—昭和 39 年に、濠州より、チェビオット種とともに寄贈を受けたもの 7 頭で、調査時月令は 24 カ月であった。

5) 対照に用いたコリデール種は、道立滝川畜産試験場において、生産育成され、本登録に合格した 29 頭であり、調査時月令は、30~40 カ月であった。

測定部位は、体高、十字部高、体長、胸前幅、胸幅、胸深、腰角幅、臍幅、尻長、管国の 10 部位並びに体重であり、体重は台秤で、管囲は巻尺で、体高および十字部高な測丈で、他の部位は、キャリパーで測定した。

また、体高、体長、胸幅、胸深、腰角幅、尻長の主要

6 部位については、各部位間の相関々係を調査した。

また、コリデール種を基準とした型差を算出し、前記主要 6 部位については、実測値間の差の検定を行なった。

結果および考察

各品種の体尺測定値の実測値ならびに体高百分率は第 1 表の通りである。

体高百分率で比較してみると、サウスダウン種が、各部位とも最も高く、次いでロムニマーシュ種、ドーセットホーン種の順であった。

チッビオット種は、コリデール種とともに体高百分率は小さく、比較的背が高かった。

各部位間の相関々係は第 2~5 表の通りである。

サウスダウン種は、各部の発育が相対的であるために、体尺各部位間の相関係数は、ほとんどが、正であり、しかもその大半は有意であった。

また、体重と相関々係の高い部位は、サウスダウン種では、体高と体長。

ロムニマーシュ種では、体長、胸幅、腰角幅、尻長、ドーセットホーン種では、体長、胸深、胸幅、チェビオット種では、体長、腰角幅の各部位であった。

このことから、体長、胸幅、胸深、腰角幅の大きいもの程、体重が重いことになる。特に体長は、体重と最も相関々係が深い。

各品種について、コリデール種を基準として型差を算出したのが第 1 図である。

肉用種として、ロムニマーシュ種が、地低で胴伸びがよく、幅、深さにおいて、コリデール種より勝っている。

サウスダウン種は、肉用種の理想体型といわれているが、胴のびが他の品種より不足である。

ドーセットホーン種、チェビオット種は、胴のびはサウスダウン種に勝っているが、幅において、やや劣っている。両品種とも体軀がよく充実している。

体重は、チェビオット種以外は、コリデール種に勝り、

Jap. Jour. Sheep. Sci., No. 3, p. 16~18, 1966

* Studies on type of mutton sheep.

** Toshizi TSURUMI and Tomohiko KONDO

*** Takikawa Animal Experiment Station of Hokkaido.

第1表 体尺測定値並に体高百分率

	ロムニマーシュ		サウスダウン		ドーセットホーン		チェビオット		コリデール	
	平均値	体高比	平均値	体高比	平均値	体高比	平均値	体高比	平均値	体高比
体 高°	58.56 ^{cm}	%	52.28 ^{cm} **	%	58.14 ^{cm} **	%	58.21 ^{cm} **	%	64.43 ^{cm}	%
十字部高	60.28	103.02	52.89	101.10	59.83	102.91	57.78	99.32	66.28	102.92
体 長°	70.99	121.51	64.69**	124.40	66.57	114.47	66.88**	114.93	69.65	108.22
胸 前 巾	22.26	38.16	22.62	43.10	21.00	36.11	19.88	34.19	19.32	30.09
胸 巾°	25.81**	44.24	26.14**	50.00	23.71	40.80	21.94**	37.73	23.93	37.28
胸 深°	29.43	50.35	28.16	53.90	27.86	47.89	25.88**	44.53	28.72	44.67
腰 角 巾°	20.00	34.28	19.26	36.90	19.36	33.31	19.06	32.69	19.60	30.42
腕 巾	24.24	41.57	23.30	44.60	23.00	39.58	21.06	36.24	23.17	36.15
尻 長°	23.21	39.74	21.74	41.60	21.86*	37.59	21.56**	37.07	23.03	35.77
管 囲	9.10	15.60	8.08	15.40	8.47	14.57	7.86	13.56	7.87	12.24
体 重	56.41 ^{kg} **		51.63 ^{kg}		55.16 ^{kg} *		49.35 ^{kg}		51.17 ^{kg}	

注。印の部位についてはコリデール種との間の差の検定を行った。

* は5%, ** は1% 水準で有意。

第2表 各部位間の相関（ロムニマーシュ種）

	体 長	胸 巾	胸 深	腰 角 巾	尻 長	体 重
体 高	0.33	-0.15	0.35	-0.15	0.22	0.14
体 長		0.36*	0.01	0.21	0.36*	0.53*
胸 巾			0.10	0.50*	0.37*	0.55**
胸 深				0.05	0.10	0.30
腰 角 巾					0.34	0.39*
尻 長						0.57**

第3表 各部位間の相関（サウスダウン種）

	体 長	胸 巾	胸 深	腰 角 巾	尻 長	体 重
体 高	0.52**	0.42**	0.35*	0.56**	0.46**	0.48**
体 長		0.33	0.45**	0.41*	-0.03	0.37*
胸 巾			0.89**	0.14	0.33	0.01
胸 深				0.08	0.35*	-0.13
腰 角 巾					0.13	0.13
尻 長						0.19

第4表 各部位間の相関（ドーセットホーン種）

	体 長	胸 巾	胸 深	腰 角 巾	尻 長	体 重
体 高	0.02	0.04	0.78*	-0.25	0.31	0.45
体 長		0.41	0.76*	0.64	0.73	0.74*
胸 巾			0.59	0.67	0.20	0.74*
胸 深				0.39	0.37	0.88**
腰 角 巾					0.30	0.70
尻 長						0.29

第5表 各部位間の相関（チェビネット種）

	体 長	胸 巾	胸 深	腰 角 巾	尻 長	体 重
体 高	0.45	-0.04	-0.36	0.01	0.13	0.17
体 長		0.18	0.46	0.11	0.74	0.72*
胸 巾			0.19	0.45	-0.08	0.42
胸 深				0.08	0.50	0.52
腰 角 巾					0.12	0.70*
尻 長						0.61

第1図 コリデール種に対する各品種の型差曲線

ロムニマーシュ種、ドーセットホーン種においては、その差は、有意であった。

摘 要

近年、北海道に輸入された肉用種めん羊，サウスダウン種，ロムニマーシュ種，ドーセットホーン種，およびチェビオット種の4品種について，その体型を調査した。

サウスダウン種は，各部位とも体高比が大きく，肉用としてよい型であるが，胴のびが足りない。

ロムニマーシュ種は，コリデール種よりやや大型で，肉用型である。

ドーセットホーン種は，体高比が高く，充実し，肉用としてよい型である。

チェビオット種は，体重も4品種中最も小さく，体型も肉用としては，劣っているが，充実している。

参 考 文 献

- 1) 高津定雄・近藤知彦：畜研，14，1069～1070（1960）